

旭川市廃棄物処分場のガス測定について

1 ガス測定の意義

埋立て後のごみの一部は、微生物等の働きによりメタンや二酸化炭素等の成分に分解され、ガスとして空気中に放出される。

また、埋立ごみの分解が進み安定化が進行すると、ガスの発生量は減少していく。

この性質を踏まえると、発生ガスの流速や組成に関するデータは、埋立地内部で起きているごみの分解状況や安定化の度合いを把握する尺度となることから、当処分場では、これまで4箇所のガス抜き管において、継続して発生ガスの測定（以下「モニタリング」という。）を実施してきた。

2 審議の経緯

(1) 令和7年第1回会議

令和12年3月で埋立終了となるが、その後は廃止に向けた取組を進めていくことになる。

廃止の際には全てのガス抜き管の測定データが必要となるので、その準備として令和8年から測定箇所の拡大を検討すべきとの意見が挙げられた。

(2) 令和7年度第3回会議

令和8年度の測定に関して、まずは全管の流速を測定し、一定以上のガス発生が確認された管を選別した上でモニタリングを行うべきとの意見が挙げられた。

3 令和8年度スケジュール

時期	内容
6～7月	全ガス抜き管を対象として発生ガスの流速を測定し、データをまとめる。
8月頃	第2回会議においてガス流速の測定結果を報告し、次の内容について検討を依頼する。 ・ モニタリングを行う管の選定 ・ 測定項目、頻度
9～11月	モニタリングの実施
R9. 2月頃	令和8年度第3回会議において結果を報告する。 令和9年度の測定内容を検討する。